

AirMagnet Survey PRO, Survey Express, and Planner v12.1

Release Notes

Released December 8, 2025

AirMagnet Survey PRO は、2.4GHz、5GHz、および 6GHz 帯域の 802.11a/b/g/n/ac/ax/be 無線ネットワークの計画およびサーベイに必要なすべてを備えた、WLANのプロフェッショナルを支援する強力で使いやすいWLAN サイトサーベイツールです。

このリリースノートでは、本バージョンに含まれる新機能および改善点について簡単に説明します。

NOTE: 特定の機能および拡張機能は、指定された製品にのみ適用されます。

目次

バージョン12.1の新機能および改善点	2
MultiFloor Planner Wi-Fi 7 対応	2
Multi-Floor Planner Advisor Wi-Fi 7 対応	4
システム要件	5
NetAllyカスタムドライバーのサポート終了のお知らせ	6
新しいアンテナパターン	7
Bug Fixes	8
Known Issues	8

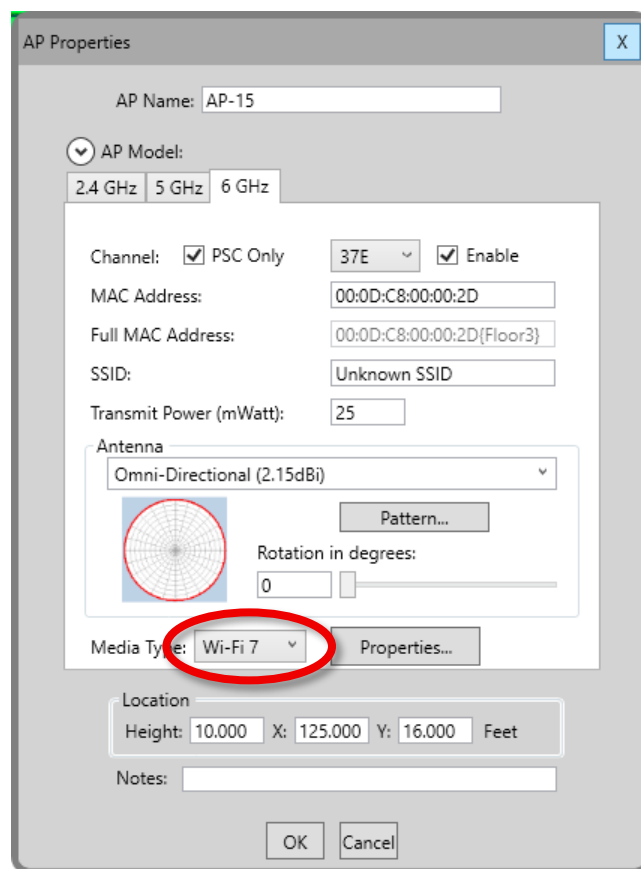
バージョン12.1の新機能および改善点

MultiFloor Planner Wi-Fi 7に対応

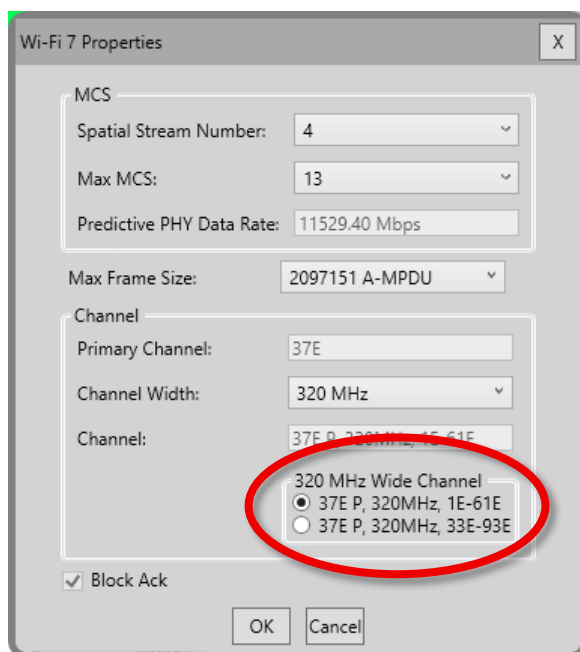
AirMagnet Survey ProおよびMultiFloor Planner向け

AirMagnet Survey/Plannerで Wi-Fi 7ネットワークの計画と設計が可能になりました！本リリースで、Multi-Floor Plannerを使用しながら2.4/5/6 GHz帯域でWi-Fi 7予測サーベイを生成する機能が追加されました。新機能の一部は以下の通りです：


- Multi-Floor Planner上の仮想アクセスポイントのメディアタイプは、2.4/5/6 GHz帯域においてWi-Fi 7に設定可能になりました。




- 320MHz チャンネル幅を使用する場合、Wi-Fi 7プロパティ画面でチャンネル 1E-189E またはチャンネル 33E-221E を選択できるようになりました。



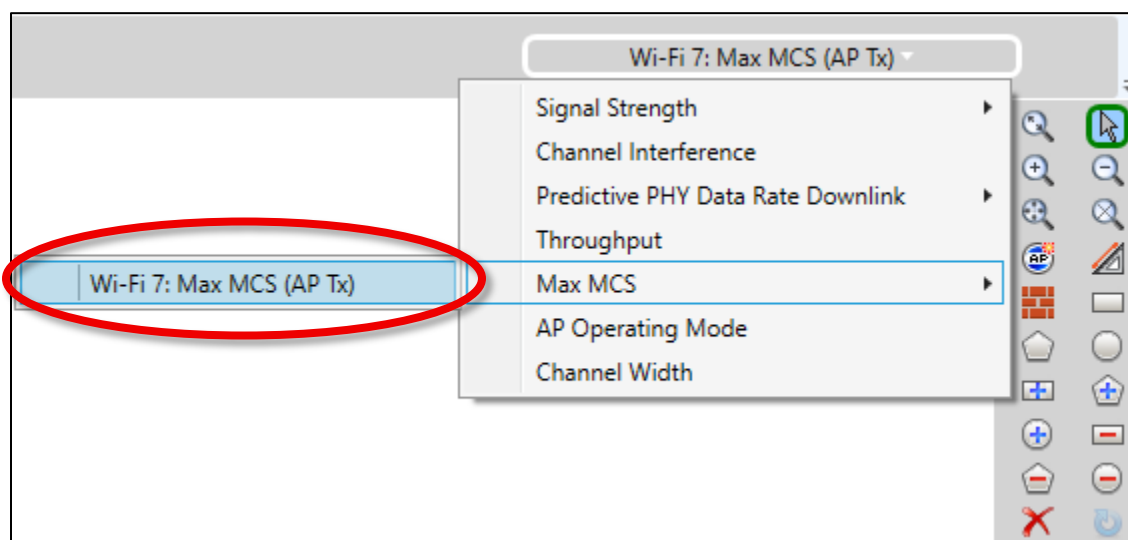
- Multi-Floor Plannerでは、以下の内容を強調表示する新しいアイコンと関連情報が利用できるようになりました:

 Wi-Fi 7をサポートするアクセス ポイント。

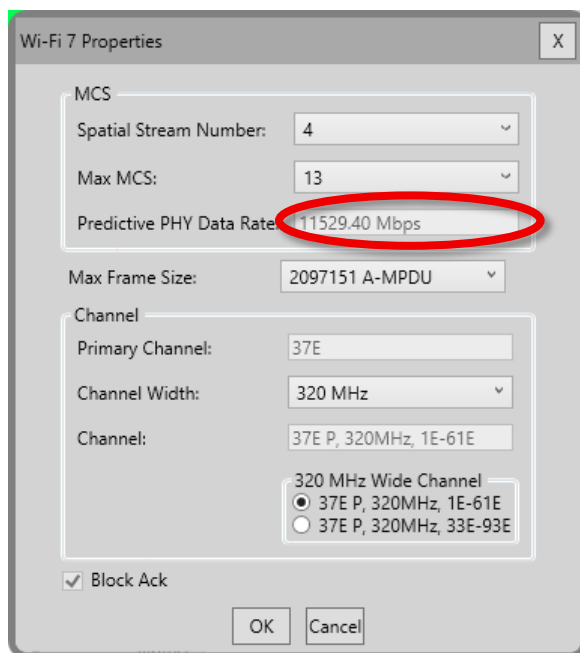
 Wi-Fi 7で導入された非常に高いスループット (EHT) 動作モード。

 320 MHzのチャンネル幅を使用するように設定されたアクセスポイント。

- Wi-Fi 7 で導入された新しい変調および符号化方式 (MCS) 値に関する情報が利用可能になりました。これには、新しい Wi-Fi 7: 最大MCS (AP Tx) 可視化の導入が含まれます。



- Wi-Fi 7使用時に達成できるより高いデータレート値に関する情報が利用可能になりました。



- Multi-Floor Plannerに含まれるレポートで、Wi-Fi 7および関連メトリックに対応しました。

この新しい機能を使用する際は、以下の点に注意してください：

- Wi-Fi 7アクセスポイントの予測PHY データレートを算出する際、Multi-Floor Plannerは最大4空間ストリームまでしか対応しません。
- このアップデート後、新しいWi-Fi 7データを含めるために、ユーザーがカスタマイズしたすべてのレポートテンプレートを再生成する必要があります。

Multi-Floor Planner Advisor Wi-Fi 7 対応

AirMagnet Survey Pro および MultiFloor Planner は Survey Express では利用できません

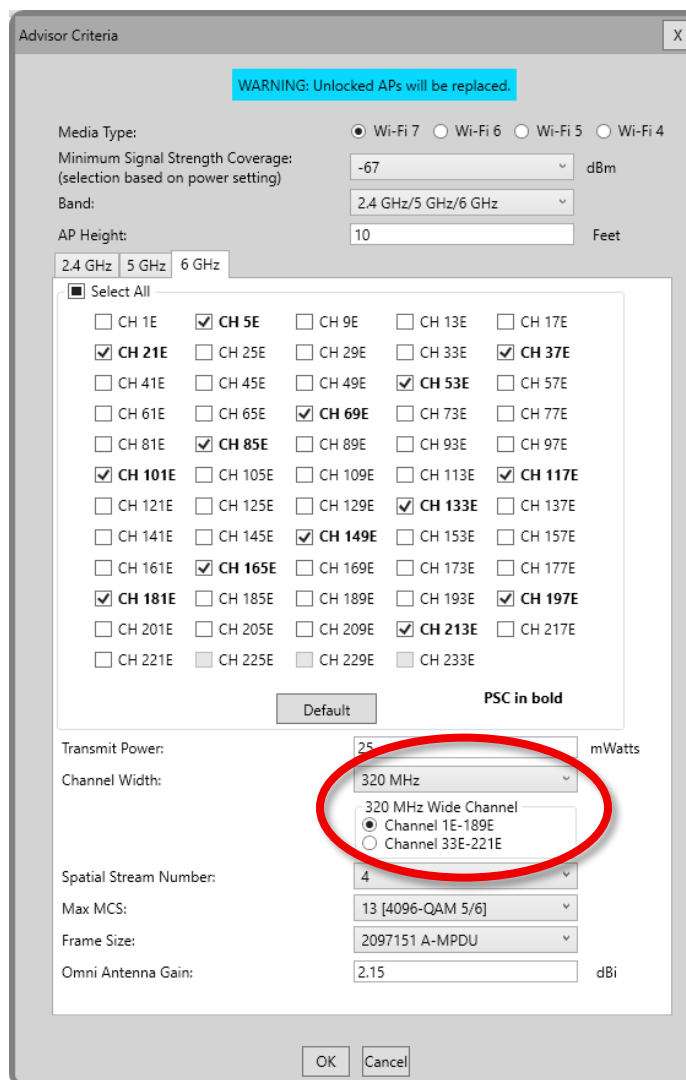
新しいWi-Fi 7アクセスポイントの設置場所を決めるのに困っていませんか？ご安心ください！

Multi-Floor Plannerのアドバイザーツールが802.11beアクセスポイントに対応しました。

新たに追加された機能は以下のとおりです：

- メディアタイプとしてWi-Fi 7を選択した場合、以下の新しいオプションが利用可能になります：
 - 最大MCS: MCS 12(4096-QAM 3/4)およびMCS 13(4096-QAM 5/6)まで選択可能。MCS 0(BPSK 1/2)からMCS 13(4096-QAM 5/6)までの値に対応します。

- チャンネル幅: 6 GHz帯域では最大320 MHzまでの幅を選択可能。320 MHz幅の場合はチャンネル 1E~189Eまたはチャンネル33E~221Eから選択します。



システム要件

AirMagnetSurveyPro、SurveyExpress、MultiFloorPlanner向け

Microsoftは、Windows 10 オペレーティングシステムのサポートを2025年10月14日に終了することを決定しました。これにより、Windows 10 PCはソフトウェア更新とセキュリティ更新の両方を受け取れなくなります。

Windows 10 を実行する PC は引き続き使用できますが、ソフトウェア更新とセキュリティ更新が提供されなくなるため、ウイルスやマルウェアの脅威にさらされるリスクが高まります。データのセキュリティを確保するため、NetAllyはWindows 10オペレーティングシステムのサポートを終了しました。今後、セキュリティを維持する最善の方法は、新しいバージョンのWindowsにアップグレードすることです。最高のパフォーマンスを得るために、NetAllyはWindows 11のご利用を推奨します。

Laptop/Notebook PC/Tablet PC

- Microsoft Windows 11 Pro/Enterprise 64-bit
- Intel® Core™ 7 プロセッサ以上を推奨
- 8GB RAM以上推奨
- 1GB以上のハードディスク空き容量を推奨
- AirCheck G3/EtherScope nXG/CyberScope (AirMapper™搭載製品を推奨)またはAirMagnet対応ワイヤレスネットワークアダプタ

NetAllyカスタムドライバーのサポート終了のお知らせ

AirMagnet Survey Pro、Survey Express向け

2024年10月、Microsoft Windowsは、Windows 11オペレーティングシステムのバージョン24H2(別名Windows 11 2024 Update)をリリースしました。この更新プログラムによりオペレーティングシステムに複数の変更が加えられ、カスタムAirMagnet Wi-Fiアダプタードライバーが正常に動作しなくなりました。このため、カスタムAirMagnet Wi-Fiアダプタードライバーのサポートを終了いたします。

カスタムAirMagnet Wi-Fiアダプタードライバーが提供する機能の一部を利用する必要がある場合、サイトサーベイデータの収集には、当社のAllyWare Wi-FiテストのいずれかでAirMapperアプリの使用をご検討ください。

- AirMapperを利用することで、AllyWare Wi-Fiテストのユーザーは、場所に基づくWi-Fi 7測定値を迅速かつ簡単に収集し、Link-LiveまたはAirMagnet Survey PROで主要なパフォーマンスメトリックの視覚的なヒートマップを生成できます。
- AirMapperアプリでは、SNRの測定が可能で、最大2つのWi-Fi無線を使用してアクティブサーベイとパッシブサーベイを並行して実行できます。さらに、テスト用無線の動作設定をカスタマイズするオプションもあります。

代わりに、Windowsのデフォルトドライバーの使用を検討することもできます。これにより、アダプターは標準的なWi-Fiアダプターのように動作します:

- 特定のチャネルをスキャンする機能はありません。すべてのチャネルがスキャンされます。「File」>「Configure」メニューに「Scan」タブや「802.11」タブはありません。
- ノイズ、信号対雑音比 (SNR) の測定はありません。
- アップリンク方向とダウンリンク方向の測定されたPHYデータレートは分離されません。接続に対して単一のPHYデータレートのみが報告されます。

- アクティブサーベイおよび iPerf サーベイではパケットリトライおよびパケットロス測定は行われません。
- 使用中のアダプタのモデルによって、iPerfのスループットパフォーマンスは異なる場合があります。
- スキャンする無線チャンネルの制限: 特定の国で無線使用が承認されているチャンネルのみをスキャンでき、動的周波数選択 (DFS) チャンネルとして割り当てられたチャンネルをスキャンできない場合があります。
- サイトサーベイを実行するために一度に使用できるアダプタは 1つだけです。
- アクティブサーベイおよび iPerfサーベイにはローミング制御はありません。
- アダプターでローミングを無効にできないため、アクティブサーベイとiPerfサーベイは「SSID 別」(「AP別」ではない)でのみ実行できます。

新しいアンテナパターン

AirMagnet Survey Pro、MultiFloor Planner向け

このSurvey PROリリースでは、以下のアンテナパターンが追加されました:

Vendor	Antenna Pattern
Aruba	AP-755 (tri-band)
Cisco	CW9176D1 (tri-band, directional) CW9176I (tri-band, internal)
Cisco/Meraki	CW9163E / CW-ANT-D1-NS-00 (tri-band, directional) CW9163E / CW-ANT-O1-NS-00 (tri-band, omni dipole)
Extreme Networks	AP5050D (tri-band) AP5050U (tri-band) AP5020 (tri-band) AP460i (dual-band) AP360i (dual-band) AP310i (dual-band)
Fortinet	FAP-432G (tri-band) FAP-433G (tri-band)
Furuno Systems	Acera 1210/1310/1320 (dual-band, azimuth only)
Ubiquiti	U6 Enterprise (dual-band)

Bug Fixes

- AMD-524 – レポートのAPリストセクションに誤ったAP電力が表示される。
- AMD-503 – View Per AP: APプロパティのカラー設定が保存されない。
- AMD-827 – Multi-Floor Plannerで、表示フィルターに一致するBSSIDのみをAPリストに含めるように制限します。
- AMD-838 – 6GHz APがサーベイで5GHzと誤認識される。
- AMD-825 – Windows EdgeでDiffviewのレジェンドがカットされる。

Known Issues

- AMD-744 – チャンネル165のAPに対してアクティブサーベイを実行しようとする、アプリケーションが応答を停止します。(Intel AX201アダプタ)
- AMD-750 – Emwicon WMI7211アダプタ使用時、アクティブサーベイ中にPHYデータレートがフリーズする。
- AMD-376 – Survey Report: 削除されたセクションがレポート本文に残る。
- AMD-594 – 30 Top APsのパッシブサーベイレポートページで、全3バンドにおいて最も強力なBSSIDが表示されない。
- AMD-755 – 測定詳細に誤ったチャンネルが表示される(ツリービューのチャンネルと一致しない)。

NetAlly製品をご利用いただき、誠にありがとうございます。